

2021年3月期 業績見通し説明資料

2020年 6月11日



日本ガイシ株式会社

NGK INSULATORS, LTD.



目次

- 2021年3月期 業績見通し P.3-4
 - ✓ セグメント別情報 P.5-12
- 設備投資／減価償却費／研究開発費 P.13-14
- 財務(CF/総資産・配当) P.15-16

	(億円)	20年3月期	21年3月期	前期比
売上高		4,420	4,200	△5%
営業利益		550	300	△45%
経常利益		520	290	△44%
親会社株主に帰属する 当期純利益		271	170	△37%
換算レート	ドル	109円	105円	△4円
	ユーロ	121円	115円	△6円

前期比 減収・減益の見通し

コロナ影響：売上高△800億円／営業利益△500億円、費用対策：100億円を反映

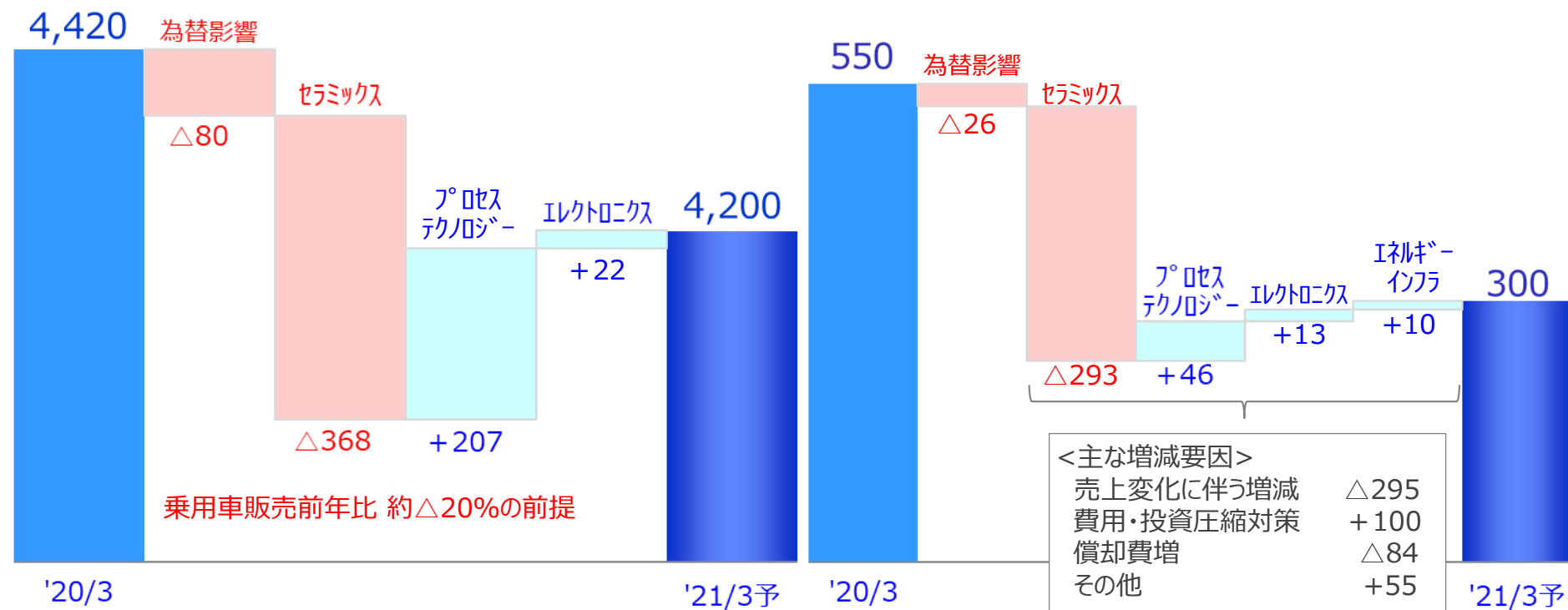
- エネルギーインフラ※ がいし、NAS®電池共に低調。間接部門スリム化や不採算製品撤退等により赤字縮小を目指す。
- セラミックス 新型コロナウイルスの影響による世界的な乗用車・トラック販売の減少を想定し、大幅減収、利益は、物量減に加えて償却負担が増加し大幅減益を見込む。
- エレクトロニクス パッケージ製品の需要低迷が続く、売上・利益共に前期並みの見通し。
- プロセステクノロジー 半導体設備投資の増加を背景に需要は回復基調で増収増益を見込む。

※21年3月期より「電力事業本部」を「エネルギーインフラ事業本部」へ改称

(億円)

売上高

営業利益



為替レート

'20/3
109円 /USD
121円 /EUR

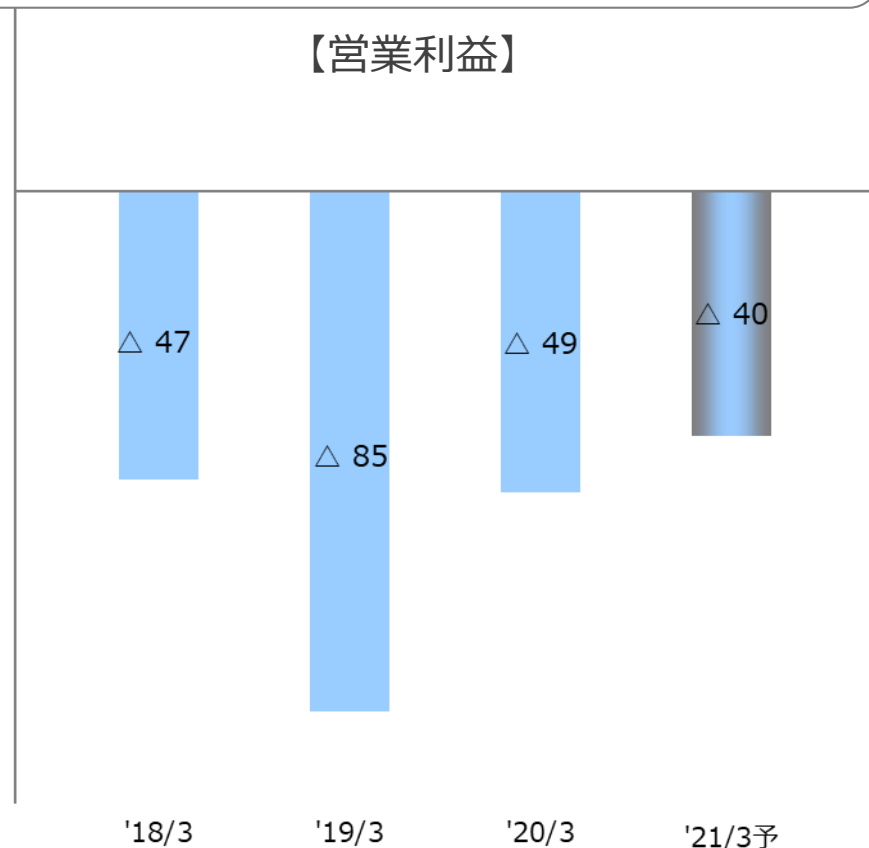
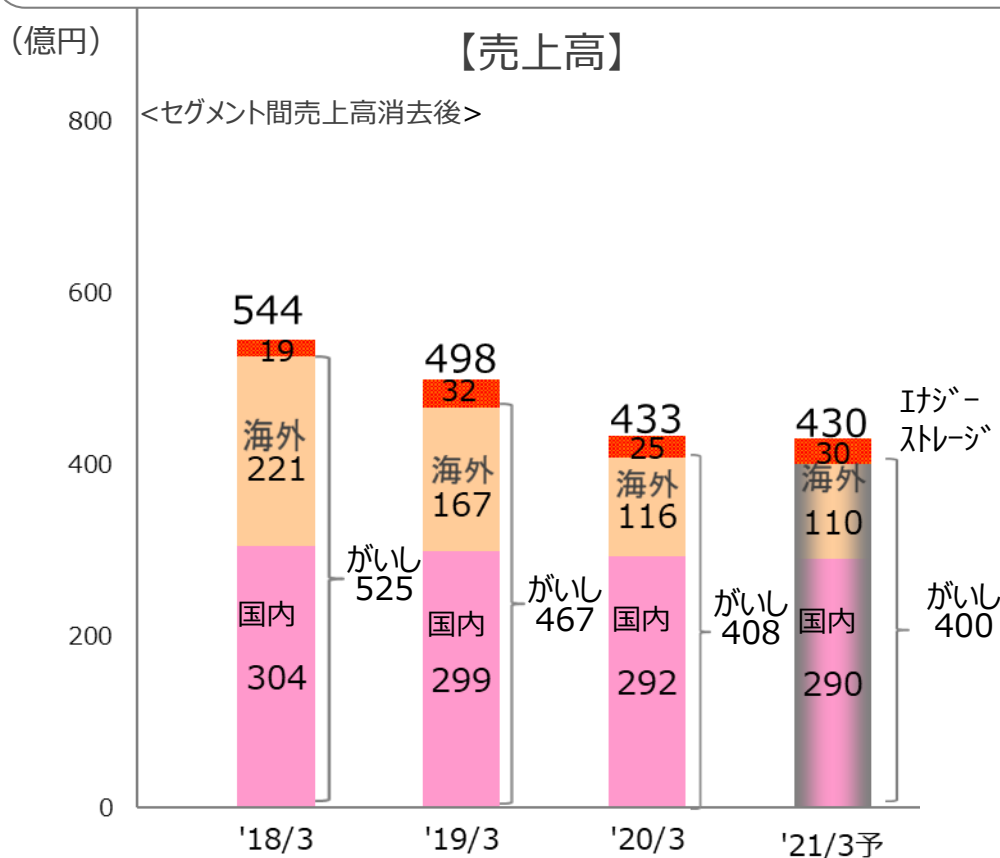
'21/3予
105円 /USD
115円 /EUR

<為替レート1円当たりの影響>
USD 売上高11億円 営業利益5.6億円
EUR 売上高 6億円 営業利益0.7億円

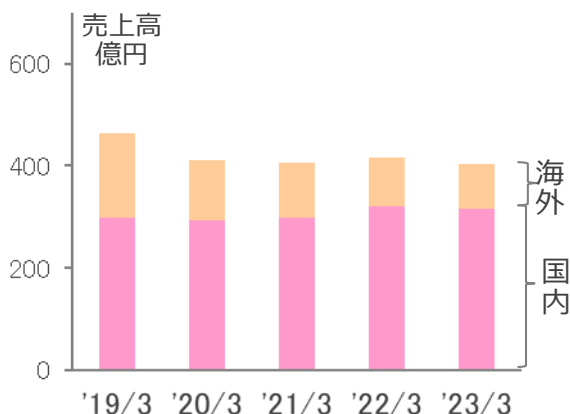
電力系統向けがいしやNAS®電池に、需要家向けの亜鉛二次電池を加えることでラインナップ拡充を図り、電力系統・蓄電分野におけるインフラ事業の総合的な強化を目指す。

- がいし・国内では電力会社の設備投資抑制が継続。間接部門スリム化や不採算製品撤退などにより赤字縮小を見込む。
- I+J-ストレージ（NAS事業を改称）
 - ・国内需要家向け中心に需要は前期並みで低調、赤字が続く見通し。

※新型コロナウイルスの影響：一部輸出案件等の出荷に遅れがあるも、影響は軽微と見る。



■がいし 早期黒字化を目指す



【市場環境】

国内：2020年4月から電力会社の「発送電分離」が始まり、電力システム改革は最終段階に入りつつある。電力各社の設備投資抑制傾向は当面続くも、電力設備の経年劣化に伴う更新需要やレジリエンス対策需要を見込む。

海外：アジア向け新設プロジェクトが一巡も、更新需要を見込む。

間接部門スリム化、不採算製品見直しなど事業再構築を進めるとともに
売価改善にも取り組み早期黒字化を目指す。

■エナジーストレージ NAS®電池と亜鉛二次電池(ZNB®)で事業拡大を目指す



NAS®電池

【NAS®電池】

当面は国内VPP案件・更新案件の受注に注力しつつ、再生可能エネルギー導入の進展に伴い拡大する長時間・大容量のエネルギーシフト蓄電池需要の獲得に向けて活動を強化。

海外では、独・BASF社との提携を活かし、共同開発や販路拡大を進め、将来の需要拡大に向けた足場固めを進める。

【亜鉛二次電池（ZNB®）】

リチウムイオン電池の火災事故が多発し、安全性の高い非リチウムイオン電池への関心が高まる中、**2019年11月に蓄電池分野で世界初のUL検証マーク※を取得**。安心・安全を重点に置くユーザーを中心に認知度向上を図り、受注につなげる。



亜鉛二次電池
(ZNB®)

NAS®電池で得られた知見を基にZNB®の早期事業化を推進する。

※米国の第三者安全科学機関「UL」の「UL9540A」規格に基づく試験結果による。(2019年11月19日リリース) 6

●電子部品

- ・ウエハー製品は、5Gなど通信システム高度化を背景に高性能フィルターの需要が拡大し、増収の見通し。
- ・HDD用圧電素子は、データセンター投資の回復により大容量HDDの需要が増加し、増収の見通し。
- ・パッケージ製品は、RFパッケージの需要低迷が続く見通し。

●金属

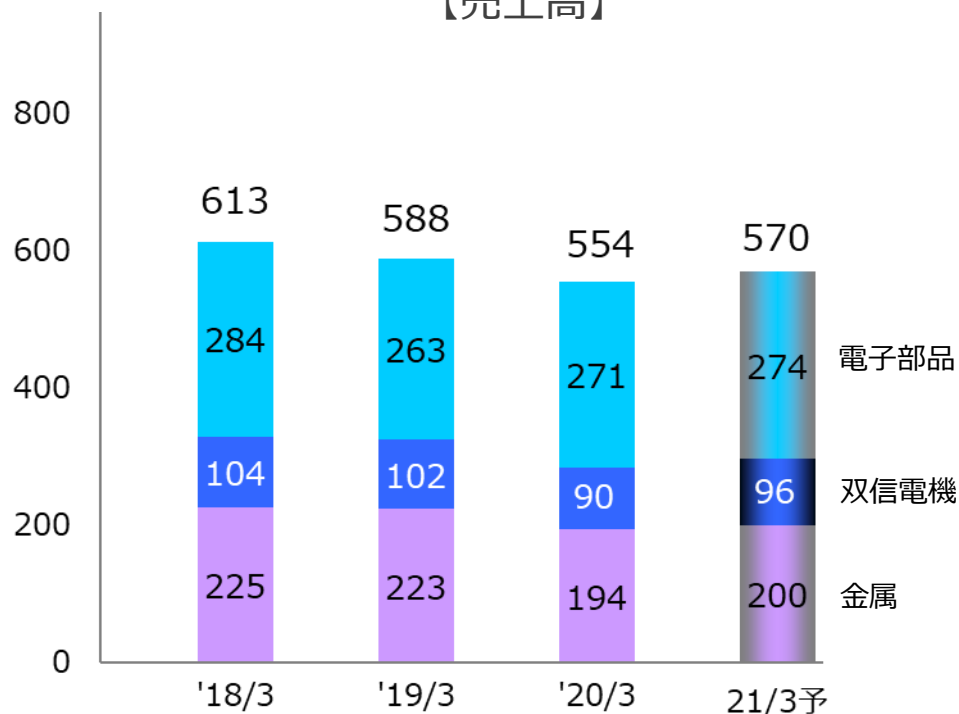
- ・車載向けの需要が低調に推移し、売上・利益共に前期並みの見通し。

※新型コロナウイルスの影響

：世界的な需要の減少や顧客工場の操業低下による出荷減少を反映。

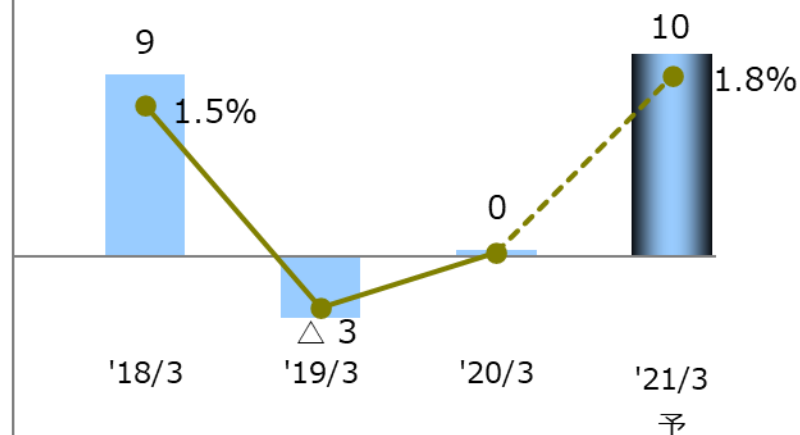
(億円) <セグメント間売上高消去後>

【売上高】



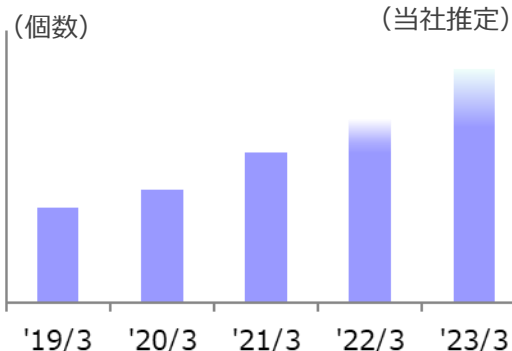
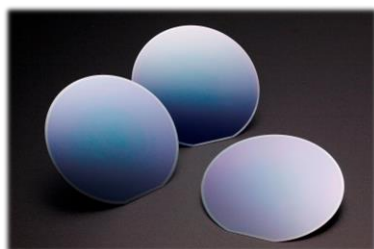
【営業利益】

●営業利益率

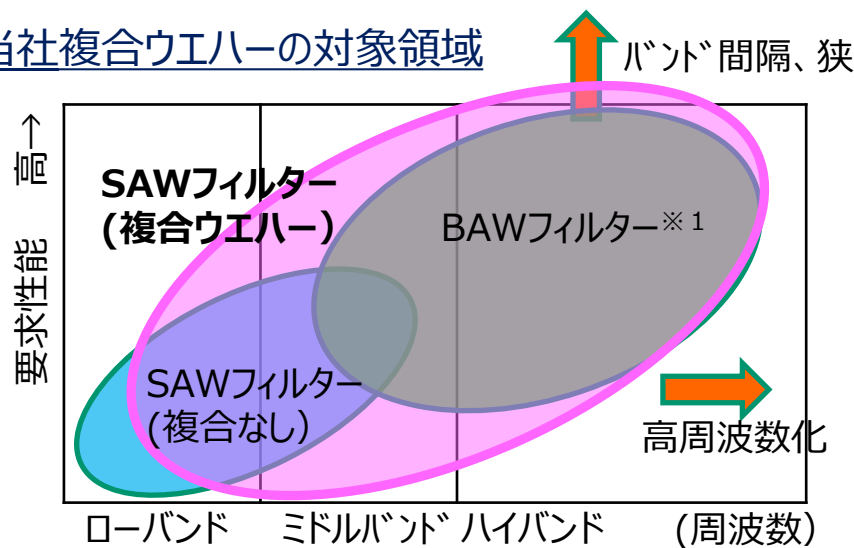


■ SAWフィルター用複合ウェハー（電子部品）

温度特性を高めた高性能SAWフィルター用複合ウェハー。5Gの普及など通信システムの高度化により、要求性能が高まると共に携帯端末のフィルター搭載数が増加し、高性能フィルター市場は年率20%程度の拡大を見込む。〔高性能フィルターの総需要数の予測〕（当社推定）



当社複合ウェハーの対象領域

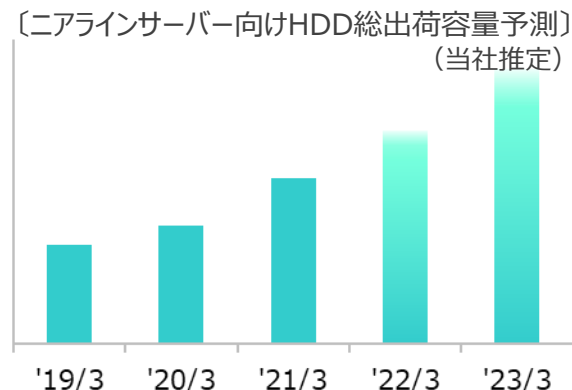
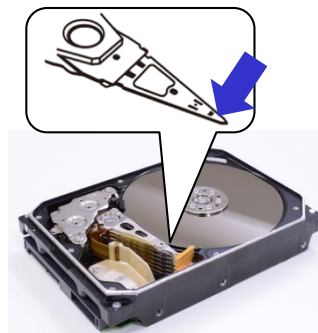


（※1 BAWフィルター 薄膜プロセスで製造する複雑構造のフィルター）

需要増加に対応し、生産能力を増強中。

■ HDD用圧電素子（電子部品）

主としてデータセンターのニアラインサーバーに用いられる大容量HDD向けマイクロアクチュエーター。映像データ、IoTセンシング等の普及によりデータ生成量は年率20%超増加し、中長期にデータセンター投資が拡大する見通し。



山梨、マレーシア工場の増産を進め、拡大する需要に対応。

■ EnerCera® チップ型セラミックス二次電池（電子部品）

結晶配向技術を用いた正極材で小型・薄型で高容量、高耐熱性を実現したリチウムイオン二次電池。スマートカードやウェアラブル端末IoTデバイス市場の拡大に伴い、需要が増加する見通し。



早期の売上・利益創出に向けてマーケティングの強化とコストダウンに取り組む。

●半導体製造装置用製品（SPE）

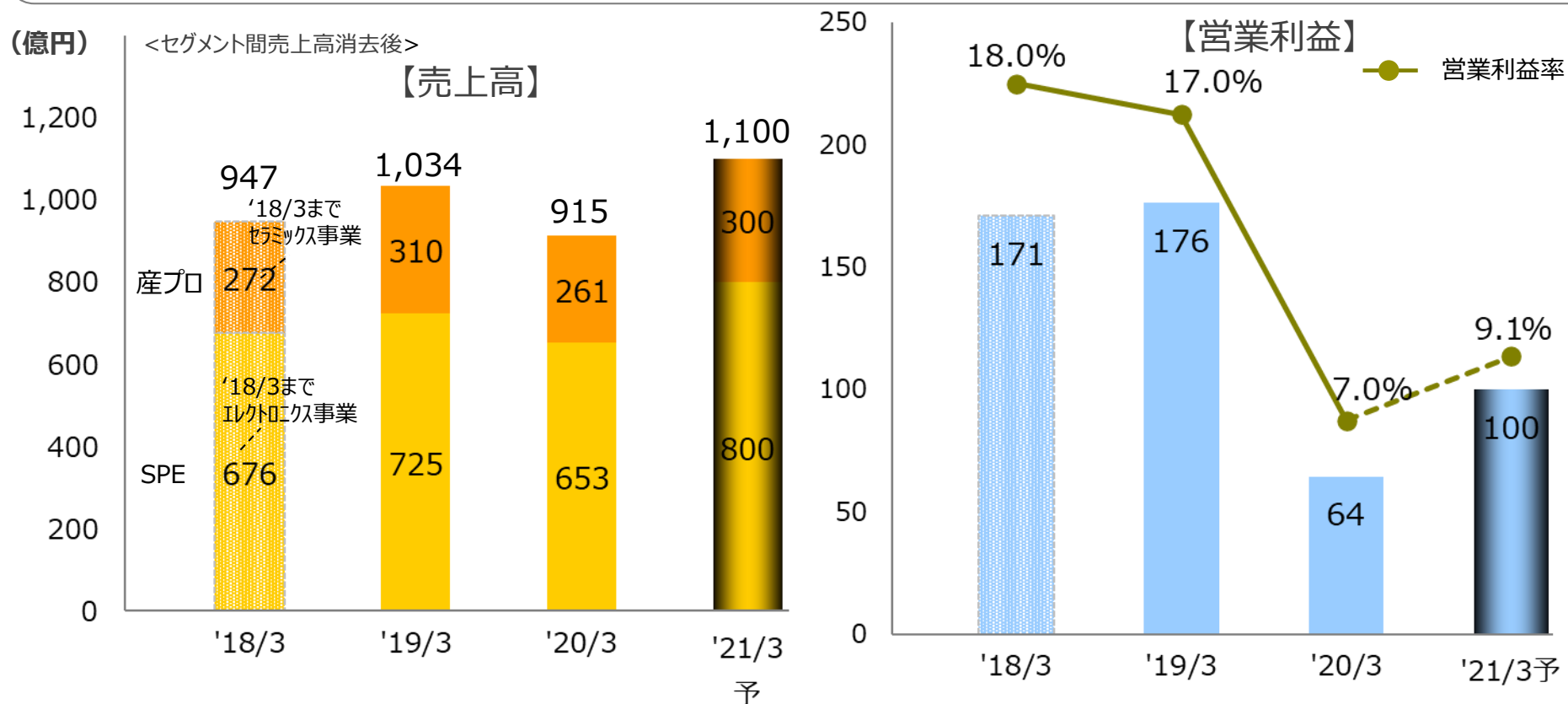
- ・半導体設備投資の増加に伴い、半導体製造装置の需要も増加する見通し。
物量の増加により増収を見込むも、多治見工場の償却費等の固定費負担増により、小幅な増益に止まる見通し。

●産業プロセス

- ・低レベル放射性廃棄物処理装置の案件進捗等により増収の見通し。

※新型コロナウイルスの影響

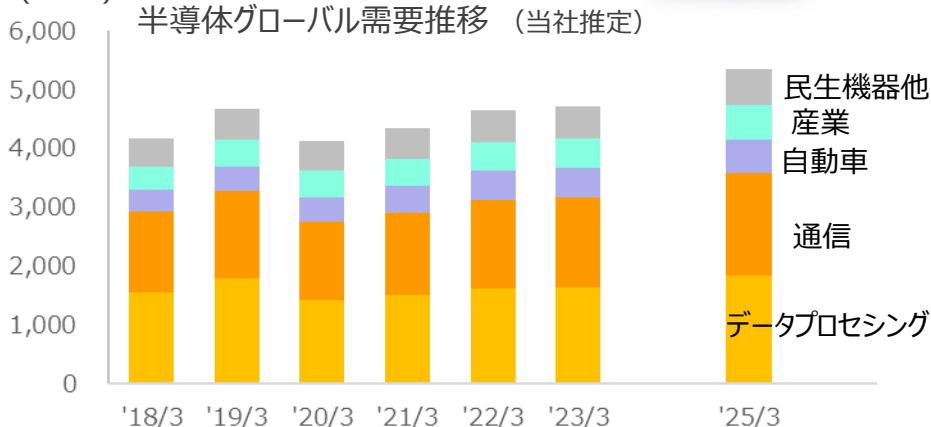
：半導体製造装置メーカーのサプライチェーンでの納期遅延等、懸念はあるものの、影響は軽微と見る。



■ 半導体製造装置用製品



(億ドル)



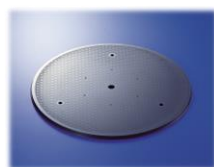
5G通信の増加を背景にデータプロセッシングや通信分野向けに半導体需要は引き続き拡大。半導体の多層化・微細化も進展。

当社 半導体製造装置用製品

サセプター (国内生産)

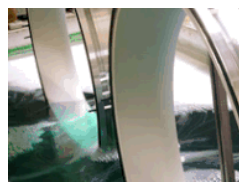


ヒーター (AIN)



静電チャック (アルミ、AIN)

チャンバー部材 (米国生産)

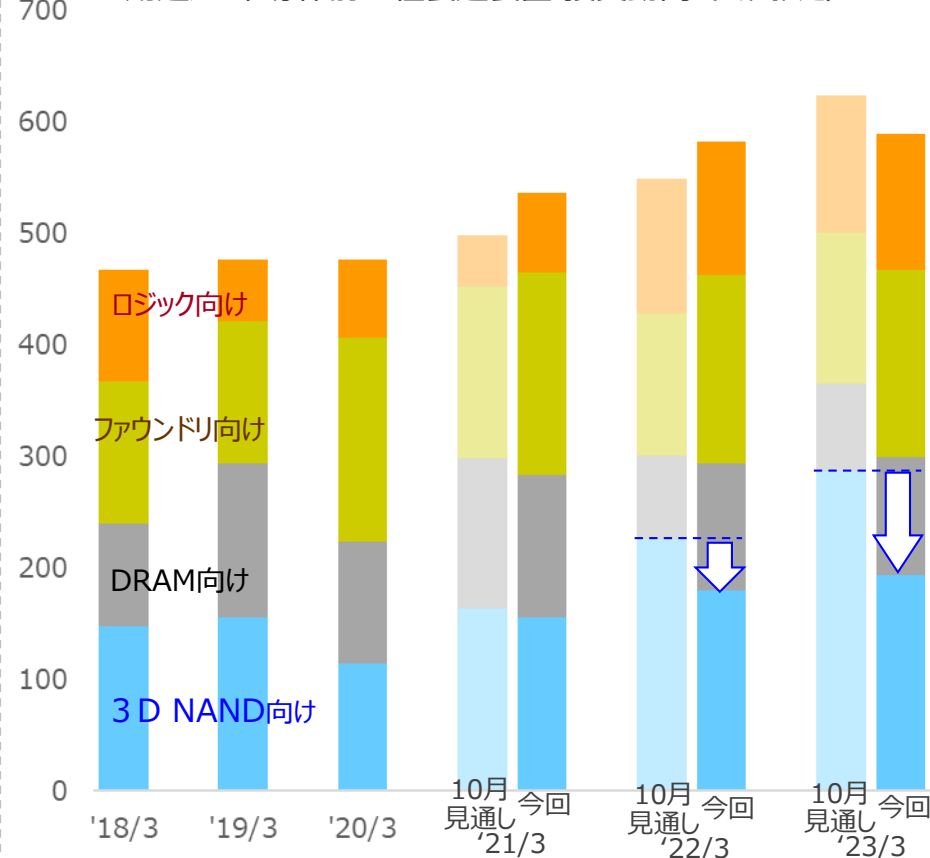


チャンバー部材 (アルミ)



チャンバー部材 (アルミ、溶射)

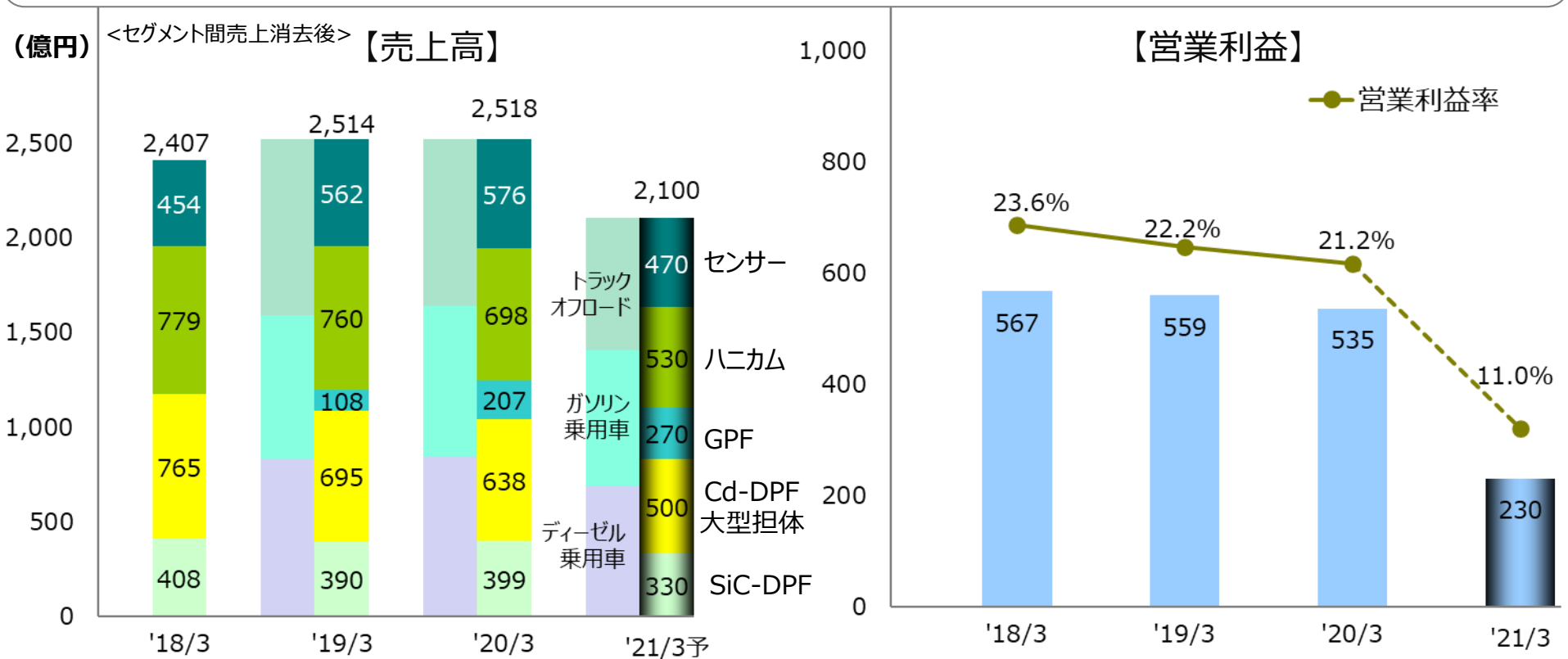
(億ドル) 用途別 半導体前工程製造装置 投資動向 (当社推定)



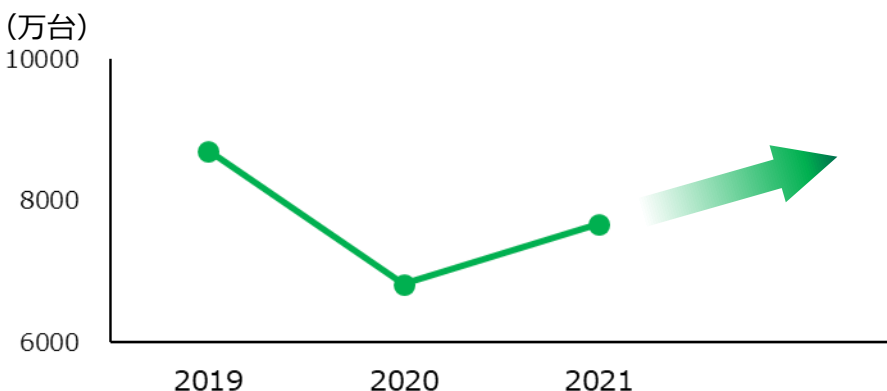
3D NAND向け装置の投資見通しは、既存装置を流用し投資効率を高める動きを見込み下方修正するも、装置投資全体では、半導体需要の増加に伴い今後も増加する見込み。

当社の半導体製造装置用部品も拡大が見込まれるため、高効率な多治見工場をフル活用し、利益の最大化を図る。

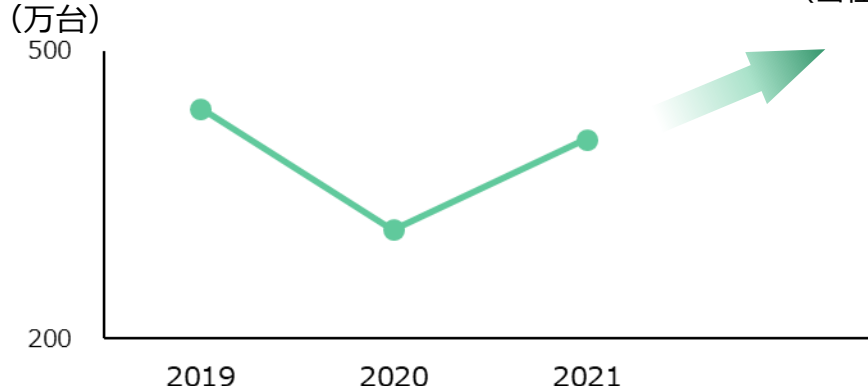
- 自動車関連…排ガス規制の強化が進む一方、新型コロナウイルスの影響に伴う世界的な乗用車・トラック販売台数の大幅な減少により、需要減を見込む。利益は、物量減の影響に加えて、償却費が増加し大幅減益の見通し。
 - ・GPF（ガソリン乗用車向け）：自動車販売台数減も、排ガス規制強化により欧州・中国向けに増加する見通し。
 - ・Cd-DPF/大型担体（トラック向け）：中国・インドの排ガス規制が強化されるものの、トラック販売の減少を背景に需要が減少。
 - ・SiC-DPF（ディーゼル乗用車・トラック向け）：欧州乗用車販売台数が減少し、需要減少を見込む。
 - ・センサー（ディーゼル乗用車・トラック向け）：欧・中・印で排ガス規制が強化されるものの、ディーゼル乗用車・トラック販売減により減少を見込む。
- ※新型コロナウイルスの影響：外部機関のデータを参考に、乗用車の販売台数は、前年比約20%の減少を想定。
上期に大幅減も、下期回復を見込む。



〔乗用車販売台数 見通し〕 (当社前提)



〔トラック・オフロード後処理対象台数 見通し〕 (当社前提)



〔乗用車の排ガス規制 見通し〕 (当社前提)

対象製品： ハニカム GPF SiC-DPF センサー

		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025～
乗 用 車	欧州	EU6d Temp	EU6d-Full					EU7
	中国	国6a (都市)	国6a (全土)			国6b (全土)		国7
	インド	BS4	BS6 Stage I			BS6 Stage II		
	タイ	Euro5				Euro6		
	ブラジル 他					Euro6		EU7
	米国	Tier 3 LEVⅢ					PM 1mg	
	日本	PPNLT (WLTC)					ガソリンエンジン RDE規制	

〔トラック・オフロードの排ガス規制 見通し〕 (当社前提)

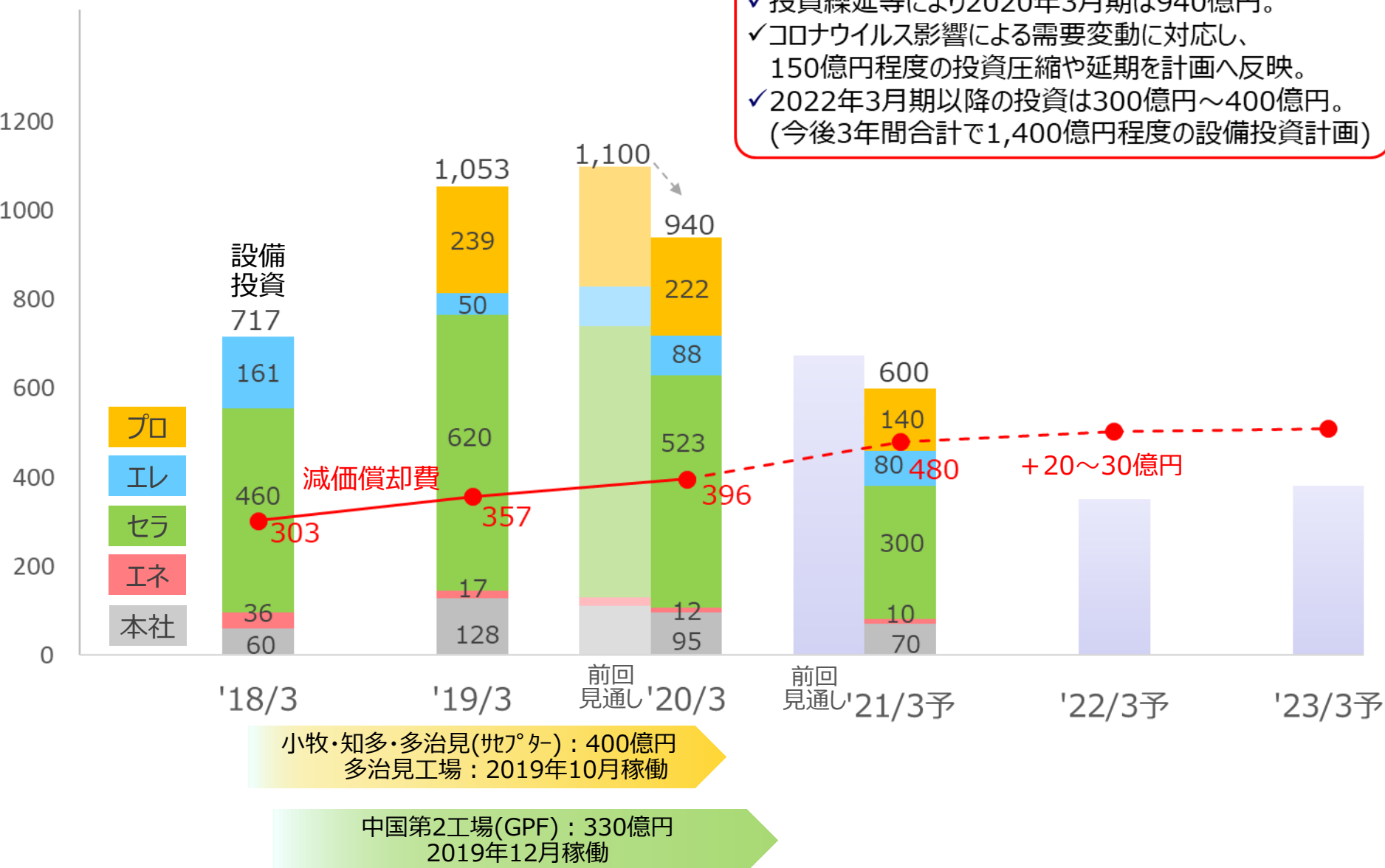
対象製品： 大型担体 Cd-DPF センサー

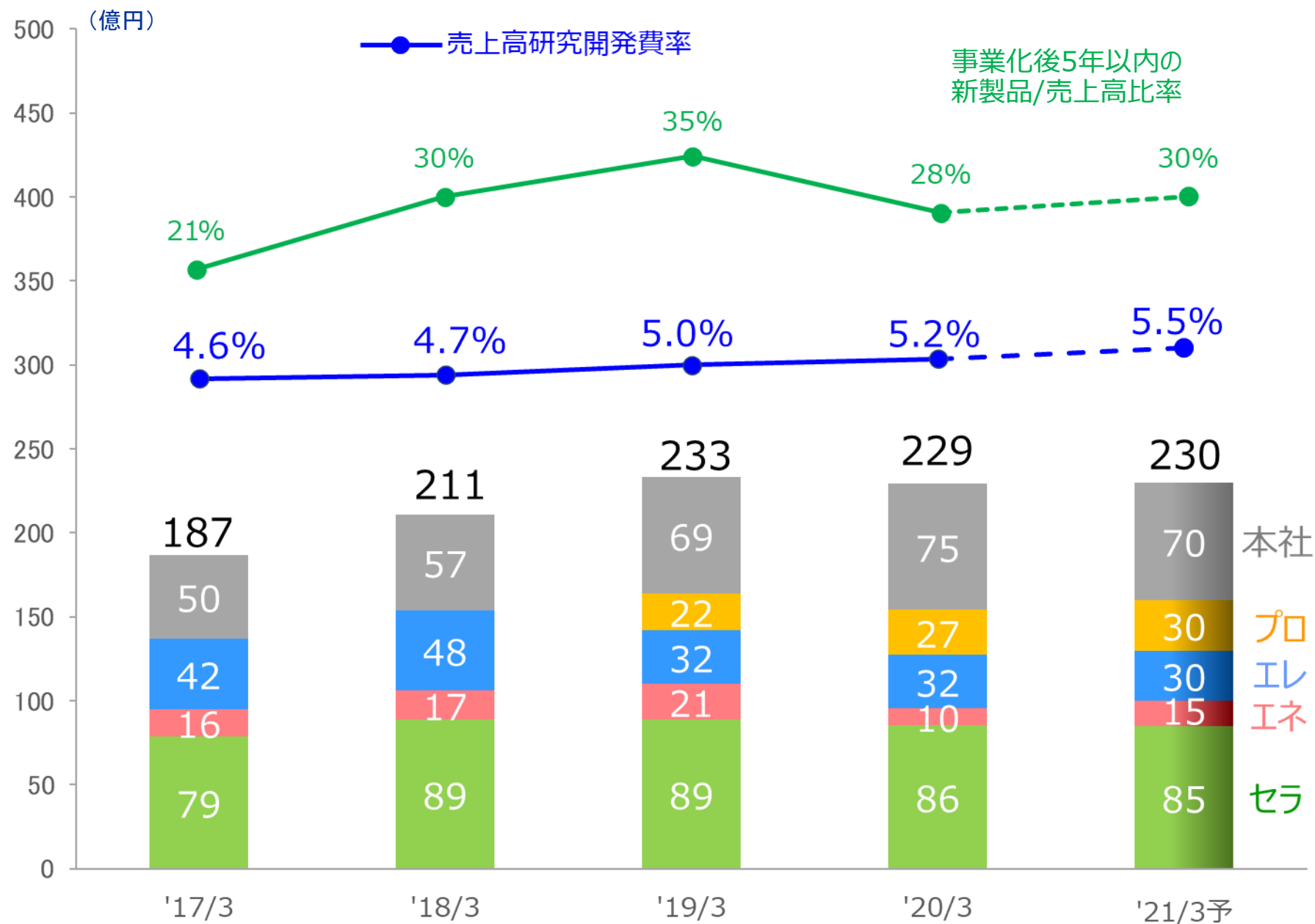
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025～
トラック	欧州	EU VI d				EU VI e		EU VII
	中国		国 VI a (都市)		国 VI a (全土)		国 VI b (全土)	国 VII
	インド	BS IV	BS VI Stage I			BS VI Stage II		
	ブラジル	EU V			EU VI			
	米国	US10					CARB Low-NOx	
	日本	ポストポスト新長期						PPPNLT
オフロード	欧州	Stage V						
	中国	国 III			国 IV			
	インド	TREM III CEV III	TREM IV CEV IV				TREM V CEV V	
	米国	Tier4F						Tier5
	日本	Tier4F						Tier5

乗用車販売台数は緩やかに回復。中期排ガス規制に大きな変化はなく、中国を中心にGPFの搭載率が徐々に高まる見通し。

一部、中国で規制導入のタイミングが遅れているものの、インド、中国、新興国の規制強化により、トラック・オフロード向け需要は増加の見通し。

(億円)

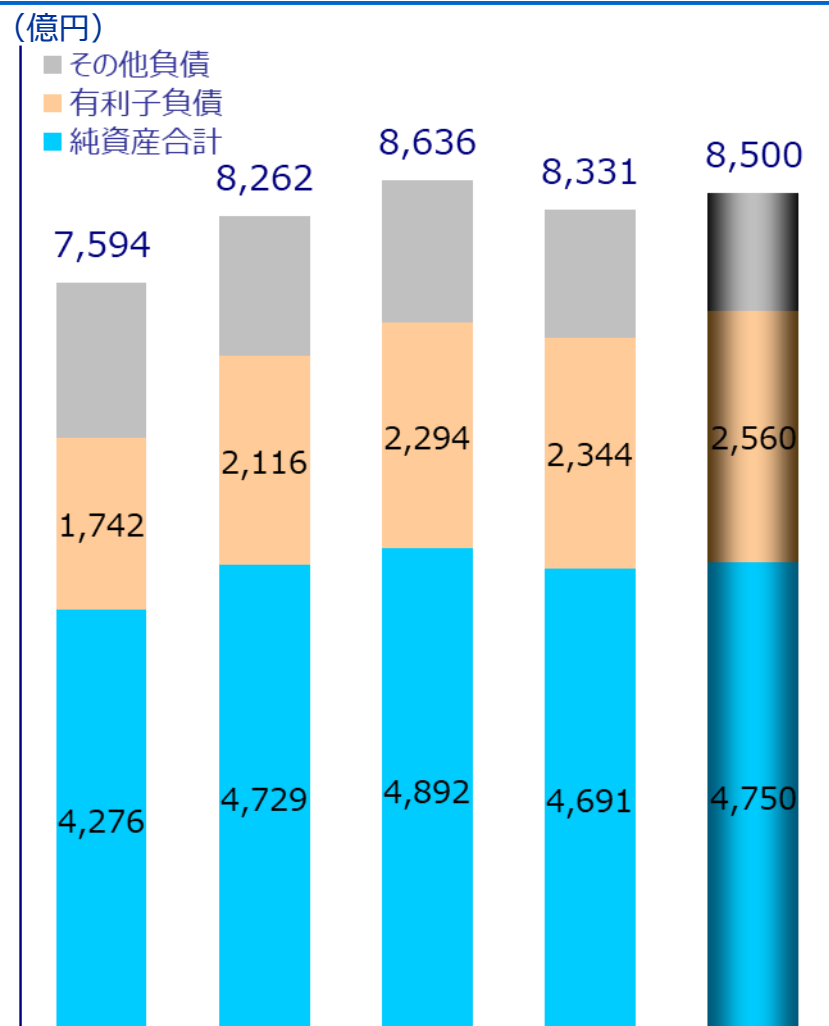




(億円)

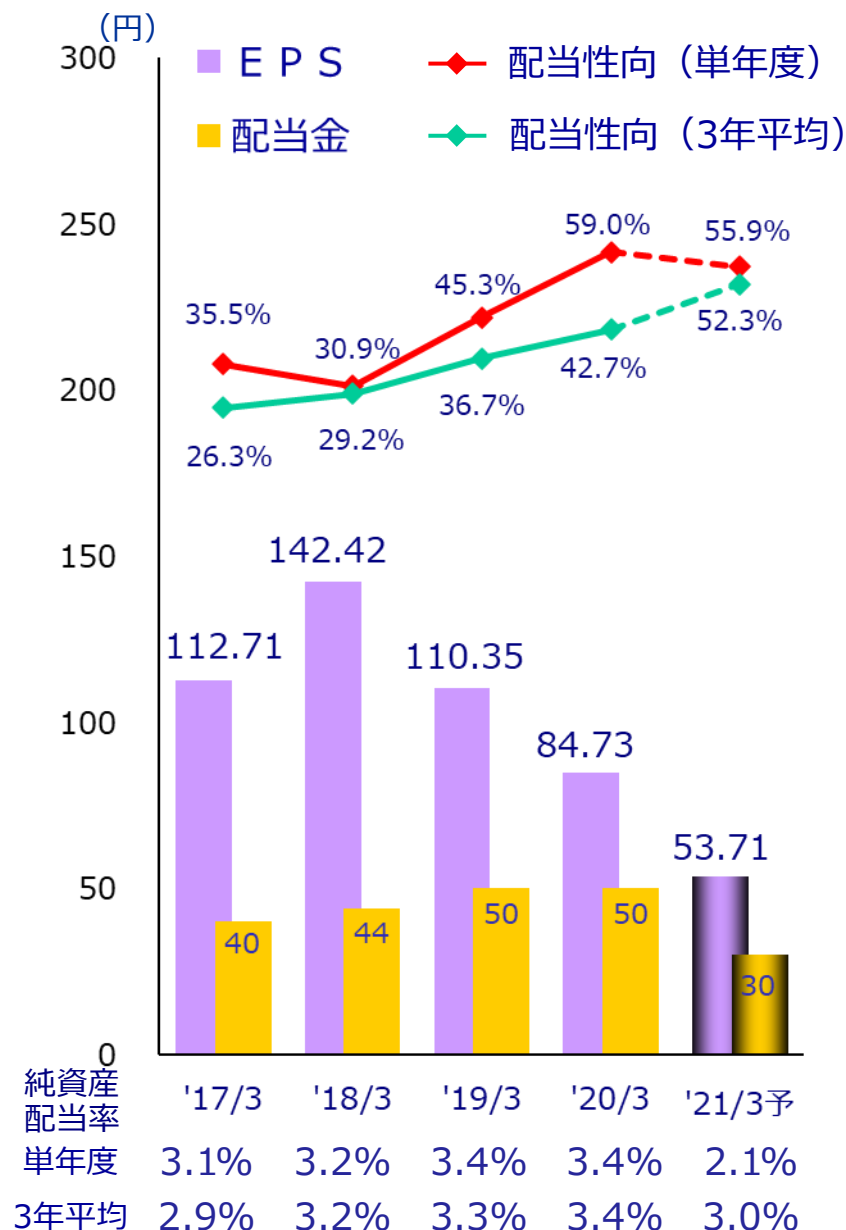
	'19/3	'20/3	'21/3予
営業活動によるキャッシュ・フロー	612	532	450
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,097 設備投資支払 △1,041	△608 設備投資支払△954	△630 設備投資支払△600
財務活動によるキャッシュ・フロー	36 新規借入+319 返済△108	△188 新規借入+370 返済△290 自己株買付△100	110 新規借入+310 返済△90
現金及び現金同等物に係る換算差額等	△10	△29	0
現金及び現金同等物の増減	△459	△293	△70
現金及び現金同等物期末残高	1,240	947	877

- ・設備投資が先行し、当面、有利子負債が資金残高を上回る見込み。
- ・22年3月期のフリーキャッシュフローはプラスに転じる見通し。



ROE	8.8%	10.4%	7.6%	5.8%	3.7%
DE	0.42	0.46	0.48	0.51	0.55
レシオ					

50%以上の自己資本比率を維持。



事業別売上高（通期）

2021年3月期

（億円）業績見通し説明資料

<セグメント間売上消去後>	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期
が い し	525	467	408	400
エナジーストレージ	19	32	25	30
エネルギーインフラ合計	544	498	433	430
ハ ニ カ ム	779	760	698	530
G P F	765	108	207	270
Cd-DPF・大型ハニカム		695	638	500
S i C - D P F	408	390	399	330
セ ン サ ー	454	562	576	470
セラミックス合計	2,407	2,514	2,518	2,100
金 属	225	223	194	200
電 子 部 品	284	263	271	274
双 信 電 機	104	102	90	96
エレクトロニクス合計	613	588	554	570
産 業 プ ロ セ ス	271	310	261	300
半導体製造装置セラミックス	676	725	653	800
プロセステクノロジー合計	947	1,034	915	1,100
全 社 合 計	4,511	4,635	4,420	4,200

<セグメント間売上消去後>	20年3月期		21年3月期	
	上期	下期	上期	下期
がいし	202	205	190	210
エネルギーストレージ	4	21	10	20
エネルギーインフラ合計	206	227	200	230
ハニカム	372	327	240	290
GP	93	114	130	140
Cd-DPF・大型ハニカム	342	297	210	290
SiC-DPF	188	211	140	190
センサー	288	288	200	270
セラミックス合計	1,282	1,236	920	1,180
金属	99	95	90	110
電子部品	140	131	115	159
双信電機	44	46	45	51
エレクトロニクス合計	283	272	250	320
産業プロセス	129	133	160	140
半導体製造装置セラミックス	298	355	370	430
プロセステクノロジー合計	427	488	530	570
全社合計	2,198	2,222	1,900	2,300

本資料は当社の経営方針、計画、財務状況等の情報をご理解いただくことを目的としており、当社の株式の購入、売却など、投資を勧誘するものではありません。

本資料に記載されている業績目標及び数値等はいずれも、当社グループが現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、需要動向などの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績数値は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知置きください。



日本ガイシ株式会社

〒467-8530 名古屋市瑞穂区須田町2-56

I R 窓口：財務部 開示グループ

Tel:(052) 872-7210 Fax:(052) 872-7160

E-mail：ir-office@ngk.co.jp

Website：https://www.ngk.co.jp

